

ブリ種苗放流技術開発事業*

概要

中地 良樹

目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発調査事業で、本県沿岸域におけるブリの満1歳魚以降の分布、生態を究明するため、標識放流と漁獲実態等の関連調査を継続実施している。

詳細は「ブリ種苗放流技術開発事業、平成8年度報告、社団法人日本栽培漁業協会」として別途報告(平成10年3月)したので、概要を述べる。

方 法

1 標識放流調査

標識放流は、1997年3月21日に和歌山県西牟婁郡白浜町沖にメジロ級(平成7年産モジャコ種苗からの養殖魚)210尾を実施した。この放流群を「'96白浜放流群」と呼ぶ。

2 関連調査

加太、串本の2漁協で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅、白浜3港(白浜、富田、椿の3支所)、里野の4ヶ所で有標識率調査を実施した。

結 果

1 標識放流調査

標識魚の再捕は、平成7年度放流群('95里野放流群)および平成8年度放流群で、平成6年度以前の放流群の報告はなかった。

1) '95里野放流群('95.11.27 205尾放流、メジロ級天然魚 図1)

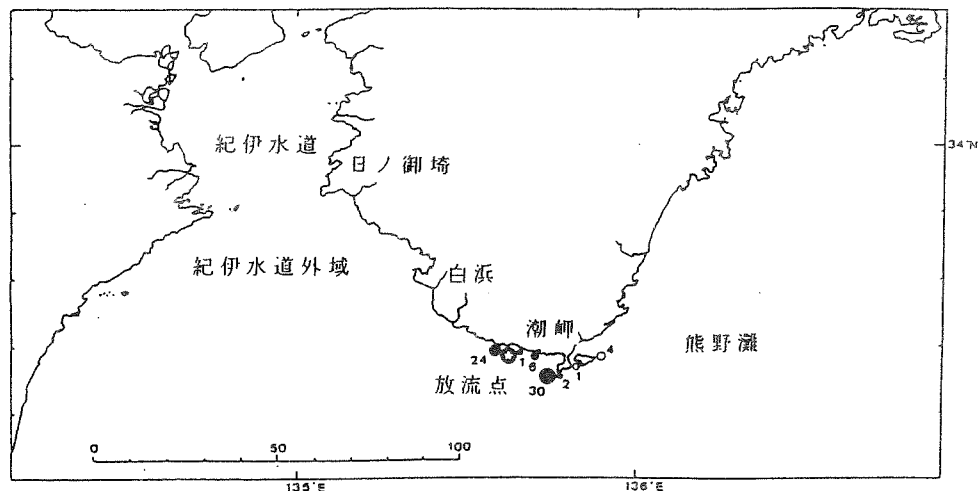


図1 '95里野放流群('95.11.27 205尾、メジロ級天然魚)の再捕場所
黒丸：前年度報告、白丸：追加報告 再捕合計70尾、不明は図中に含まず再捕率34.2%

*ブリ種苗放流技術開発事業費による。

本放流群は、'92里野放流群（供試魚は天然魚、'92.11.28放流）と放流場所・放流時期ともほぼ同じである。追加報告は、2件の5尾が再捕された。再捕は1996年4月1日と15日でいずれも串本町大島地先の定置網であった。15日の檜野埼地先の再捕は、潮岬を東側に回り込み熊野灘へ移動しておりメジロ級としては極めて珍しい。本放流群の再捕状況は、不明の2尾を含め合計70尾、再捕率34.2%で再捕はすべて紀南沿岸域であった。

漁具別の再捕状況は、一本釣り59尾、小型定置網11尾となった。

2) '96白浜放流群（'97. 3.21 210尾放流、メジロ級養殖魚 図2）

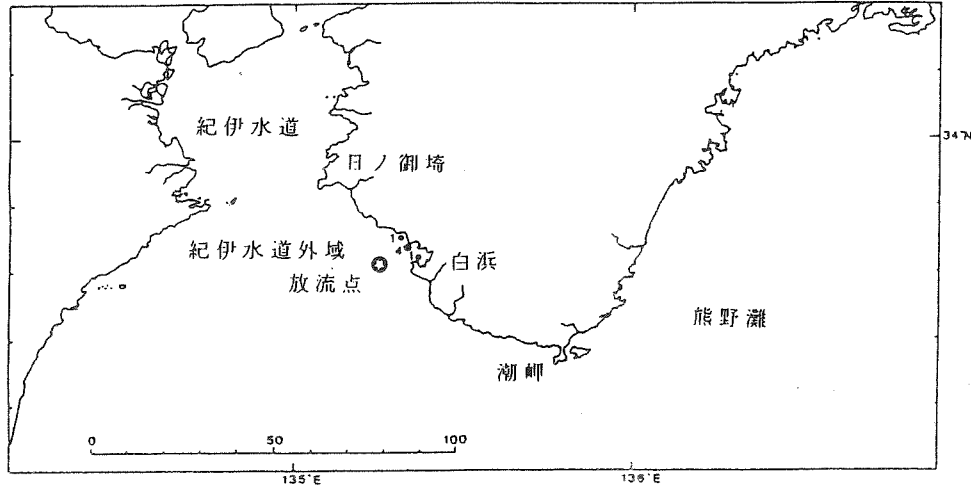


図2 '96白浜放流群（'97. 3.21 210尾、メジロ級養殖魚）の再捕場所
再捕合計 7尾、再捕率 3.3%

平成8年度放流群では、供試魚の天然メジロの確保ができなかったため、養殖メジロで標識放流を実施した。再捕は放流翌日22日に南部町地先の刺網で2尾、放流2日後の23日に田辺湾内の曳縄で2尾と印南町地先の刺網で1尾、放流4日後および5日後の南部町地先の刺網で各1尾の合計7尾、再捕率3.3%であった。

漁具別の再捕状況は、刺網6尾、曳縄1尾であった。

2 関連調査

1) 銘柄別漁獲量調査

加太：ツバスは'88年以降概ね年毎に増減を繰り返しており、本年は前年の47.6%、0.7tで9～10月に0.6tの漁獲がみられた。ハマチは前年の130.4%、1.3tの漁獲があり、ピークは11月の0.5tであった。メジロはほぼ前年並みの8.7tで9～11月に79.9%を漁獲した。ブリ類（全銘柄）では、ほぼ前年並みの10.7tで、平成4年以降は平成6年の35.0tを除いて10t前後で推移している。

串本：ツバスは極めて低調で前年の7.4%の0.04tであるが、ハマチ、メジロは前年を大きく上回り、それぞれ500%、13.6tと285.9%、67.4tの漁獲がみられた。しかし、ブリは前年の57.3%、19.1tであり、良好であった定置網の漁獲減少が影響した。ブリ類（全銘柄）では前年の166.4%、100.1tと上回った。漁業種類別では、釣りによるメジロの漁獲は前年の82.8%、14.1tと下回ったが、定置網のそれは1,252.5%、47.1tと大きく上回った。しかし、前述のとおり定置網による

ブリの漁獲は前年の57.3%、19.0 tと減少した。漁業種類別のブリ類(全銘柄)漁獲量は、定置網では平成4年以降で最高の76.3 tと極めて多かったが、釣りでのそれは前年の82.8%、16.6 tと下回った。'91年以降まき網による漁獲は皆無であったが、本年は8月にメジロ3.9 tの漁獲がみられた。

2) 漁獲尾数調査

加太：ツバスは8月下旬から12月上旬に1,254尾の漁獲があり、11月以降は極めて少なくピークは9月中旬、273尾であった。ハマチは6月上旬から'97年1月下旬まで1,033尾の漁獲があり、ピークは11月下旬の321尾であった。メジロは6月中旬から12月下旬まで2,853尾であり銘柄別漁獲尾数は最も多く、9~11月のそれぞれ中旬にピークがみられることが特徴である。

湯浅中央：ツバスは釣りと定置網で350尾の漁獲があり、10月下旬から11月上旬に定置網の漁獲が顕著であった。ハマチは1,332尾の漁獲があり、釣り・定置網の主対象となった。漁獲は4月上旬、10月中旬および12月中旬から'97年1月中旬に多い。メジロは252尾の漁獲があり定置網でのそれは全体の91.6%を占め、12月上旬から'97年1月中旬に多い。

白浜3港：ツバスは1,244尾の漁獲があり、旬別では4月下旬の237尾が最高であるが、10月下旬から12月上旬の漁獲が多い。ハマチは銘柄別で最多の4,387尾の漁獲があり、7~9月は少なく4月下旬の2,001尾が極めて多い。メジロは776尾の漁獲があり、4~5月および12月に多く、7~8月は皆無であった。場所別では、白浜はツバス(960尾)とハマチ(1,038尾)、椿はハマチ(3,339尾)とメジロ(648尾)が多く、富田は全般的に少ない(ツバスが269尾)。なお、椿は定置網の漁獲が主体であった。

3) 有標識率調査

標識魚の再捕報告があったのは、湯浅中央のツバス7尾、いずれも屋島事業場(日裁協)放流群であった。再捕率はツバスで2.05%、ブリ類全体で0.41%であった。その他の調査場所では標識魚は確認されていない。